



欄に数値またはコメントを記入

|                                 |                      |
|---------------------------------|----------------------|
| 1. 建物概要                         |                      |
| 建物名称 (仮称)株式会社はごろもフーズ新清水プラント新築工事 | BEE 0.8 BEEランク B- ★★ |

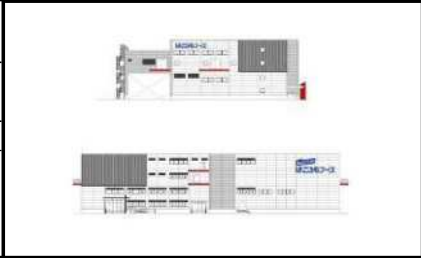
| 2. 重点項目への取組み度  |                                     | 重点項目                                   | 得点 <sup>*</sup> /満点 | 取組み度 | 評価    |
|--|-------------------------------------|--|---------------------|------|-------|
| ※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点) | 評価 凡例<br>よい 4点以上<br>ふつう 3点以上<br>点未満 | "ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming) | 3.2 /5              |      | ふつう   |
|  |                                     | "災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)              | 2.8 /5              |      | がんばろう |
|  |                                     | "しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design) | 2.8 /5              |      | がんばろう |
|  |                                     | "緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)              | 2.0 /5              |      | がんばろう |

| 3. 重点項目についての環境配慮概要   |  | 内訳対応項目  |     |     |
|--|--|---|-----|-----|
| 各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。  |  |   |     |     |
| <b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>  |  | 得点  | 3.2 |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①熱貫流率 窓U値4.36 / 外壁U値0.89、屋根U値0.33、床U値0.00</li> <li>②執務エリアU値1.55以上確保</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦[BPI<sub>m</sub>]=0.64</li> <li>⑨[BEl<sub>m</sub>]=0.80</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪節水型の衛生設備を採用する。</li> <li>⑬S造につき、躯体と仕上げ・設備配管・配線等、工種別の解体が容易にできるようにした。</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</li> </ul> | Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能<br>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備<br>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御<br>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数<br>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔<br>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔<br>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔<br>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔<br>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔<br>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出<br>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上<br>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制<br>2 ⑧ 自然エネルギー利用<br>3 ⑨ 設備システムの高効率化<br>4 4.1 ⑩ モニタリング<br>4.2 ⑩ 運用管理体制<br>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水<br>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無<br>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無<br>2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減<br>2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用<br>2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用<br>2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用<br>2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材<br>2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み<br>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用<br>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤<br>3.2.2 ⑬ 断熱材<br>3.2.3 ⑬ 冷媒<br>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮<br>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 |   |     |     |
|  | <b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>   |   | 得点  | 2.8 |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⑰標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普段のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。</li> <li>耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよう努めた。</li> </ul> </li> </ul>  | Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性<br>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能<br>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備<br>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備<br>2.4.3 ⑰ 電気設備<br>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法<br>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備 |     |     |
|  |  | <b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>   |     | 得点  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲事務室は天井高を2.80m確保。</li> <li>執務エリアは将来、空間レイアウトの自由性が大きいサイドコアとなっている。</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲建物周囲に視角空間をつくらないようにし、防犯性に配慮した。</li> </ul> </li> </ul>  | Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画<br>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり<br>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ<br>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上   |   |     |     |
|  | <b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>   |   | 得点  | 2.0 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上)</li> <li>■敷地外環境対策 (⑲温熱環境悪化の改善)</li> </ul>   | Q-3 1 ⑲ 生物環境の保全と創出<br>2 ⑲ まちなみ景観への配慮<br>3 3.2 ⑲ 敷地内温熱環境の向上<br>LR-3 2 2.2 ⑲ 温熱環境悪化の改善   |   |     |     |

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

| 1-1 建物概要 |                            | 1-2 外観 |                |
|----------|----------------------------|--------|----------------|
| 建物名称     | (仮称)株式会社はごろもフーズ新清水プラント新築工事 | 階数     | 地上4F           |
| 建設地      | 静岡県静岡市清水区島崎町 149-3 他6筆     | 構造     | S造             |
| 用途地域     | 工業地域、臨港地区(商港区)             | 平均居住人員 | 0人             |
| 地域区分     | 6地域                        | 年間使用時間 | 3,450時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 工場                         | 評価の段階  | 実施設計段階評価       |
| 竣工年      | 2020年6月 予定                 | 評価の実施日 | 2019年5月22日     |
| 敷地面積     | 4,928㎡                     | 作成者    | 北川 言           |
| 建築面積     | 3,215㎡                     | 確認日    |                |
| 延床面積     | 7,711㎡                     | 確認者    |                |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.5**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

| 3 設計上の配慮事項   |  |  |
|--|--|--|
| <b>総合</b><br>・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。  |  | <b>その他</b><br>特に無し   |
| <b>Q1 室内環境</b><br>・サッシの遮音性能を高め室内環境に努めた。<br>・内装材はF☆☆☆☆を使用し、シックハウス対策に配慮した。   | <b>Q2 サービス性能</b><br>・事務室は天井高を2.80m確保。<br>・執務エリアは将来、空間レイアウトの自由性が大きいサイドコアとなっている。<br>・標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普及のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 | <b>Q3 室外環境 (敷地内)</b><br>・建物周囲に視角空間をつくらないようにし、防犯性に配慮した。   |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>・外皮性能の向上及び1次エネルギー消費量を抑える様努めた。<br>・省エネ層(執務エリア) BEIm=0.80 BPIm=0.64<br>・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。 | <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>・節水型の衛生設備を採用する。<br>・S造につき、躯体と仕上げ・設備配管・配線等、工種別の解体が容易にできるようにした。   | <b>LR3 敷地外環境</b><br>・駐輪場・駐車場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。<br>・出入口付近での安全を確保する為、出入口付近では歩行者・車両共に十分な見通しを確保する。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される